平成 31 年 4 月～令和 2 年 3 月
公益社団法人　日本グライダークラブの記録

クラブホームページ　　www.glider.jp

公益社団法人日本グライダークラブ定款より

（目　　的）
第　3　条　本クラブは青少年を始め、大空に憧れを抱く者に対し、体験搭乗及び操縦・整備技術などの指導・教育を通し、航空知識の普及とこれらの伝承を行うと共に国際交流を行い、グライダースポーツ文化の向上・振興を図り、もって我国グライダー界の発展に資することを目的とする。

（事　　業）
第　4　条　本クラブは前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

(1)グライダーの啓蒙･啓発･普及に関する事業
(2)グライダー及び曳航機の操縦技術の向上、及びその指導者の養成
(3)グライダーの操縦技術、整備技術等、及び安全運航・事故防止対策に関する研究並びにその施策
(4)グライダー及び関係する装備・計器などの設計・制作・整備・修理・改造
(5)この事業に必要な機材、施設、設備などの整備、及び人材の養成
(6)その他本クラブの目的を達成するために必要な事業

Club Operation in Apr.2019～Mar.2020

令和１年４月～令和２年３月　公益社団法人日本グライダークラブ事業報告書

令和２年４月１日
公益社団法人日本グライダークラブ
理事長　吉田　正

公益社団法人日本グライダークラブは、内閣府所管のもと、航空の安全の促進と発展を目的として設立された公益社団法人です。当クラブでは定款に掲げる理念に基づき平成 31 年４月～令和２年３月期は下記の通り、公益事業をはじめとした様々な活動を実施しました。令和 2 年度も引き続き公益事業を積極的に推進する所存ですので、クラブの活動と運営に皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。

A. 公益目的事業１(公1)グライダーの操縦・整備技術の研究・伝承と指導者の養成

Ⅰ. グライダー普及のための体験搭乗会

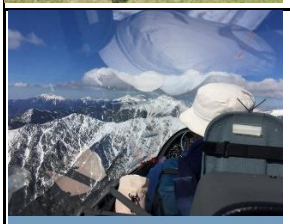
「グライダー体験搭乗会」「家族友人搭乗会」「ふるさと納税返礼体験搭乗」

期　　間 :平成 31 年４月～令和２年３月の各週末・祭日
主　　催 :公益社団法人　日本グライダークラブ
参加人数 :85 名
概　　要 :
・クラブのホームページなどを見て来場した希望者に対し、1 日につき数名の体験搭乗を行い、グライダーおよびクラブの活動への理解を深めた。
・家族友人搭乗会を毎月第３日曜日に設定した。
・地元板倉町のふるさと納税の返礼として体験搭乗を実施。(6 名)

Ⅱ. 安全なグライダーおよびモーターグライダー操縦士の育成

1. 「グライダー操縦士の育成」

期　　間 :平成 31 年４月～令和２年３月の各週末、祭日、および週日
参加人数 :練習生 8 名
概　　要 :滑空機(上級・動力)技能証明取得のための学科および操縦技術について、座学および飛行訓練を実施。



2. 「クロスカントリーフライトパイロットの育成」

① 高性能複座機を使用して経験豊かな教官の指導のもと、関東周辺から日本アルプス、東北地方への長距離飛行の訓練を実施。
期　　間 :平成 31 年４月～令和２年３月の週末、祭日
参加人数 :20 名

② 動力滑空機を使用して関東周辺から長野、福島への航法訓練を実施。
期　　間 :令和１年４月～令和２年３月の週末、祭日および週日
参加人数 : 10 名

3. 「ウエーブフライトパイロットの育成」

期　　間 :平成 31 年４月～令和２年３月の週末、祭日および週日
参加人数 :20 名
概　　要 :高性能複座機を使用して経験豊かな教官の指導のもと、ウェーブ(山岳波)を利用して高高度飛行の訓練を実施。

4.「世界選手権(速度競技・曲技)、日本選手権等の競技会出場選手の養成」

期　　間 :平成 31 年４月～令和２年３月の週末および祭日
参加人数 :2 名
概　　要 :海外選手権参加予定の 2 名のパイロットに対し、練習環境の充実と支援態勢を整えた。

Ⅲ. グライダーの普及ならびに飛行技術の向上を図るための講習会

1. 「グライダーベーシックコース」

① グライダーパイロットに必要な知識、技量、経験などのオリエンテーションおよび初ソロに必要な技量向上のための訓練を適宜実施。
期　　間 :平成 31 年 4 月～令和 2 年 3 月の各週末、祭日
参加人数 :8 名

② 指定養成入所準備コース
指定養成課程の受講準備のためのコースが開催された。
期　　間 :令和 1 年 12 月 29 日～令和 2 年 1 月 11 日
参加人数 :1 名

2. 「グライダー操縦士資格取得　受験対策コース」

期　　間 :平成 31 年 4 月～令和 2 年 3 月
参加人数 :2 名
概　　要 :動力滑空機技能証明取得のための訓練日を金曜に設定し、野外飛行訓練などを集中的に実施。令和 1 年 5 月 28 日および 11 月 29 日の航空局実地試験で吉岡会員、津久井会員が合格した。

3. 「自家用上級滑空機　指定養成コース」

期　　間 :令和 2 年 1 月 13 日～令和 2 年 3 月 21 日
参加人数 :1 名
概　　要 :自家用上級滑空機 技能証明取得のための指定養成コースを開設し、3 月 21 日の実地試験で和田会員が合格した。

4. 「異常姿勢回避(EMFT)スピン特化講習会」(日本滑空協会主催)

期　　間 :令和 2 年 1 月 4･5 日
参加人数 :12 名 (座学および実機訓練)
概　　要 :スピンに陥らない知識と、回復技術を含む異常姿勢からの回復、緊急操作の技量向上のための講習会を開催。

5. 「事業用･教育証明受験準備講習会」(2 回)

期　　間:令和 1 年 9 月 7 日、10 月 6 日、11 月 30 日、12 月 1 日
参加人数:32 名
概　　要:高度な指導技術を有する指導者の養成を目的とした講習会を開催。令和 1 年 12 月 5 日および令和 2 年 3 月 12 日の航空局教育証明実地試験で田村会員、小高会員が合格した。

6. 「板倉安全会議」

期　　間 :令和 1 年 12 月 21 日
参加人数 27 名
概　　要 :1 年間の板倉滑空場で発生したヒヤリハット、インシデントおよび過去の事故事例を振り返る学びの場を設定した。

7. 「整備講習会」
① 滑空機日常基礎整備
期　　間 : 平成 31 年 4 月 29・30 日
参加人数 : 4 名
概　　要 : 日常の整備作業に必要とされる基礎知識の講習会を開催。

② FRP 取り扱い講習会
期　　間 :令和 1 年 8 月 12･13 日
参加人数 :3 名
概　　要 :FRP 機の日常の手入、修理、取り扱いについての講習会を開催。

③ 二等航空運航整備士（上級滑空機）講習会（5 回）
期　　間 ：令和 1 年 5 月 1･2 日、7 月 27･28 日
　　令和 2 年 1 月 13･16 日、3 月 14･15 日、21･22 日
参加人数 ：16 名
概　　要 ：二等航空運航整備士資格取得のための受験準備講習会を開催。令和 1 年 7 月 29 日、令和 2 年 1 月 17 日、3 月 18･25 日の航空局実地試験で計 8 名が合格した。

④ 二等航空整備士講習会（2 回）
期　　間 ：令和 1 年 5 月 5･6 日、 8 月 17･18･31、9 月 1 日
参加人数 ：6 名
概　　要 ：二等航空運航整備士から二等航空整備士への受験準備講習会を開催。令和 1 年 8 月 19 日、9 月 5 日の航空局実地試験で 3 名が合格。

⑤ 動力滑空機整備士講習会
期　　間 ：令和 1 年 6 月 16･23 日、令和 2 年 1 月 18･19 日
参加人数 ：4 名
概　　要 ：滑空機から動力滑空機への限定変更の受験準備講習会を開催。令和 2 年 1 月 23 日の航空局実地試験で 2 名が合格。

8.「特定操縦技能審査講習会」（6 回）

期　　間 ： 平成 31 年 4 月 27 日、令和 1 年 6 月 22 日、10 月 19 日、11 月 16 日、令和 2 年 1 月 18 日、3 月 21 日
参加人数： 17 名
概　　要 ： 法制化された特定操縦技能審査（機長として飛行する操縦士は 2 年毎の受験が義務づけられている） の受験準備講習会を開催。

Ⅳ. 競技会の開催

1. 令和 1 年度「OLC 板倉マンスリーコンペ」滑空競技会

期　　間 ： 平成 31 年 4 月～令和 2 年 3 月
参加人数 ： 32 名
概　　要 ： グライダーの安全飛行のための基礎的な滑空気象の解析能力、および野外滑翔技術の向上を図る目的で、板倉滑空場をベースとして活動するグライダーパイロットを対象として、オンラインコンテスト（OLC）を利用した月間競技会を開催。

2. 令和 1 年度「ゴールデンウイークコンペ」

期　　間 ：平成 31 年 4 月 27 日～令和 1 年 5 月 5 日（9 日間）
参加人数 ：24 名
概　　要 ：大型連休を利用してクラブ内で競技会を開催。

Ⅴ. グライダーの操縦技術、安全運航、事故防止対策に関する研究会、講演会などの開催

1.「AFRコース」（Annual Flight Revue　年次フライトレビュー）

期　　間 ： 平成 31 年 4 月～令和 2 年 3 月の各週末、祭日
参加人数 ： 板倉滑空場で機長として飛行する操縦者全員
概　　要 ： 板倉滑空場にて、機長として飛行するパイロットに対して、クラブ規定により 1 年に一度義務付けられている AFR を、滑空機、動力滑空機、曳航機毎に実施。

	2.「特定操縦技能審査」(滑空機、飛行機) 期　　間 ： 平成 31 年 4 月～令和 2 年 3 月の各週末、祭日 参加人数 ： 板倉滑空場で機長として飛行する操縦者（計 35 名受験） 概　　要 ： 法制化された特定操縦技能審査(機長として飛行する操縦者は 2 年毎の受験が義務づけられる)を実施する態勢を整えた。
	3.「操縦インストラクター・曳航パイロットの任用・リフレッシュ訓練」 期　　間 ：平成 31 年 4 月～令和 2 年 3 月 参加人数 ：操縦教官 18 名、曳航パイロット 13 名(新規任用 1 名) 概　　要 ：特定操縦技能審査制度、AFR 規定、インストラクター任用規定に従い実施。

Ⅵ. グライダーに関する出版物等による航空思想の普及

Japan Soaring Club techsoup Google for Nonprofits BLIPMAP UniViewer SkySight	**1.**「会員・外部向けインターネットサービスの活用」 ① クラブホームページ ② クラブ公式ブログ ③ クラブ公式 Twitter, Facebook ④ ソフトウエア寄贈プログラム「テックスープ」との寄贈プログラム契約 ⑤ Google 社の非営利団体向けプログラム"Google Apps for Nonprofits" の利用 **2.**「広報誌(JSC ニュース)の制作」(1 年に 4 回発行) **3.**「グライダー気象情報利用者拡大への PR」 ・ブリップマップ(BLIPMAP) ・スカイサイト(Sky Sight)

B.公益目的事業 2 （公 2 航空情報提供事業）

Ⅰ. 板倉フライトサービスの運用

	「飛行援助用航空局」 板倉 FLIGHT SERVICE （130.675Mhz） 期　　間 ：平成 31 年 4 月～令和 2 年 3 月の運航日 概　　要 ：板倉滑空場付近の航空の安全を図るため、運航日毎にフライトサービス担当者を指名し、周辺を飛行する航空機からの飛行情報の要求に的確に対応できる態勢を整えている。 **AIC041/14** 板倉 FS：滑空場周辺半径 5NM, 5000ft 以下

Ⅱ. 緊急時の場外離着陸場の提供、維持管理

 	1. 宇都宮基地訓練ヘリの場外離着陸場としての使用承諾 平成 27 年 9 月、陸自宇都宮航空学校より、板倉滑空場を訓練ヘリの予防着陸のため、緊急時の場外離着陸場として使用したいとの要請があり航空の安全の観点から、年度毎の使用承諾書を締結している。 **2.** 栃木県ドクターヘリのランデブーポイントの提供 **3.** 群馬県ドクターヘリのランデブーポイントの提供 令和 1 年 8 月 20 日、群馬県健康福祉部医務課より、板倉滑空場を救急医療活動等に伴うドクターヘリの離着陸場所として今後使用したい旨の要請があり、了承した。

C.クラブ組織の整備

定款に従い公益事業執行態勢、定款および規定に沿った業務遂行により、組織の充実を図ると共に、会員データベースの構築など、事務作業の効率化を計画した。

D.その他クラブの目的に必要な事業

Ⅰ. 人材

1.「若年層支援プログラムの拡大、全国化」

概　要:ユース会員制度、ジュニア会員制度、ラインサポーター制度を活用して、若年層を支援するとともに、若年会員の拡大に努めた。

① ユース会員:　16 名　　ジュニア会員:　3 名

② ラインサポーター制度:令和 1 年度参加者 53 名
大学航空部員および若手パイロットを対象に、若年層が運航に参加することで、クラブに入会しやすくする方策を実施している。

2.「世界大会への選手・チーム・クルーとしての積極的な参加・協力」

① LX Navication Cup 滑空機選手権に出場
期　間 :平成 31 年 4 月 28 日～令和 1 年 5 月 4 日
概　要 :ハンガリー シャティマにて開催された LX Cup 選手権に、丸山会員が JS3 で出場し、19 位の成績を収めた。

② 滑空機選手権シュテンダールグライドに出場
期　間 :令和 1 年 7 月 8 日～7 月 19 日
概　要 :ドイツ シュテンダールで開催された滑空機選手権に丸山会員が JS3 で出場し、7 位の成績を収めた。

④ 滑空機曲技世界選手権に出場
期　間 : 令和 1 年 7 月 17 日～7 月 28 日
概　要 : ルーマニア デーバで開催された滑空機曲技世界選手権アドバンストクラスに酒井会員がスイフトで出場し、フリーノウン科目で 5 位、総合で 17 位の成績を収めた。

⑤ 滑空機曲技世界選手権に審査員として参加
概　要 : 上記滑空機曲技世界選手権に、鐘尾会員が審査員として参加。

Ⅱ. 機材・施設

1.「動力機の騒音対策」

① 騒音対策のため滑空場周辺に 5 ヶ所(令和 1 年 7 月に 1 ヶ所追加)の飛行規制空域を設定し、それらの上空を避けるために曳航経路を見直した。

② エンジン騒音の低い動力滑空機スーパーディモナを曳航に活用した。

③ 滑走路 33 の路面を平坦化して発航位置を 150m 南側へ移動し、北側への曳航上昇高度を高くする等の対策を講じている。

④ 令和 1 年 10 月 12 日に襲来した台風 19 号により洪水が発生した足利、佐野、栃木の被災エリア上空に飛行規制区域を設定し、令和 1 年内の動力機の飛行を制限した。

⑤ 騒音クレームには板倉町役場とも連携して真摯に対応している。

2.「滑空場の整備」

① 滑走路 33 南側部分の路面平坦化を進め、有効滑走路長が 150m 延伸している。今後も安全な滑走路の効率的利用方法の検討をしていく。

② 令和 1 年 10 月 12 日に襲来した台風 19 号により滑走路が冠水し、泥土が堆積して 1 ヶ月間、飛行不可となったが、会員有志による修復作業により、復旧した。

3.「整備教室の施設整備、整備場の整理整頓」

概　要:整備講習会参加者への快適性を向上し、耐空検査整備のためのスペースを確保するため、関連施設の整理整頓を図っている。

4.「ライブカメラを用いた滑空場運航情報提供事業」

概　要:ライブカメラを設置し、滑走路の状況を常に視認できる態勢をとり、来訪者の利便性を高めている。(クラブホームページから閲覧可能)

Ⅲ. 組織運営

1.「安全活動の強化」

① ヒヤリハットレポートの提出促進、活用により経験を共有し、航空事故防止を図った。令和 1 年度の提出数は 20 レポート。
② インストラクターミーティングを適宜開催し教育方法の高度化を図った。
③ 飛行終了後にディブリーフィングを開催し、安全情報を共有した。

2.「地域との交流」

① 渡良瀬遊水地クリーン作戦に参加(平成 31 年 4 月 13 日)
渡良瀬遊水地周辺で活動する団体の清掃イベントに協調し、滑空場周辺の清掃作業を実施。
② ふるさと納税への対応
会員有志が板倉町へふるさと納税を行い、地域との交流を図った。また納税の返礼品としてグライダー体験飛行を提供した。
令和 1 年度　ふるさと納税体験飛行実施者:9 名
③ いたくら商工祭に参加(令和 1 年 10 月 26　日)
板倉町商工会主催の「いたくら商工祭」に参加し、ディスカス 2b を展示してグライダーの知識普及に努めた。

3.「国内グライダークラブの組織化、交流、協力態勢の確立等への支援」

① 第 7 回全国グライダークラブミーティングの開催
期　間　:令和 1 年 11 月 2 ・3 日　静岡県浜松市
概　要　:全国 14 のグライダークラブ運営担当者が集まり、統一的な操縦教育基準や安全対策の構築、運航業務支援、知識・技術の共有、人材交流、講習会・イベントの相互案内策定について討議した。当クラブより稲垣専務理事、丸山理事が出席した。
② 統一的操縦教育教材の作成に協力
英国インストラクターマニュアルの翻訳支援、および日本版グライダーインストラクターマニュアル作成支援を行った。
③ 安全情報の共有
他団体とヒヤリハットレポートの共有化、旅客機などと輻輳する空域を飛行する際の、安全確保のための情報共有などを図った。

4.「他クラブ会員の相互受け入れ・協調」

① 板倉滑空場で合宿・練習・体験搭乗会を行った諸団体
九州工大航空部　学習院大学航空部　早稲田大学航空部　慶應大学航空部　東京工業大学 OB 会　三田ソアリングクラブ
期　間　:平成 31 年 4 月～令和 2 年 3 月の週末・祭日・週日
概　要　:上記団体の飛行活動について運航支援を行い、航空スポーツの発展と普及に努めた。
② 世界各国のグライダー関係団体などと活発な交流を行った。
世界各国(アメリカ、ドイツ、オランダなど)のグライダー団体の会員が板倉滑空場を訪れ、情報を交換し交流を深めた。

5.「他団体の連絡会等への出席・交流」

① 渡良瀬スカイスポーツ協議会の連絡会議への参加 (毎月 1 回開催)
概　要:渡良瀬遊水地で活動する団体との会議に吉田理事長が出席。

② 板倉町役場訪問 （令和 1 年 8 月 30 日）
概　　要：クラブの状況報告と飛行活動への理解を深める目的で、吉田理事長、稲垣専務理事、鈴木常務理事が訪問。

③ 関東空域空中衝突防止会議 （令和 1 年 7 月 20 日）
概　　要：米空軍横田基地開催の会議に鈴木常務理事と早川会員が出席し、関東空域の空中衝突防止を図るための情報交換を行った。

④ 宇都宮航空連絡会 （令和 1 年 11 月 28 日）
概　　要：陸上自衛隊北宇都宮駐屯地開催の会議に千葉理事が出席し、飛行空域等の情報交換を行った。

⑤ 航空安全講習会（航空 5 団体主催、航空局後援）に講師として参加
期　　間 ：令和 1 年 6 月 29 日（熊本）、令和 1 年 6 月 30 日（八尾）
概　　要 ：櫻井会員が講演「TEM/CRM」

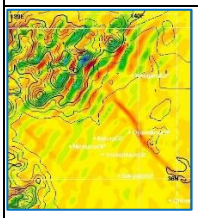
⑥ 滑空スポーツ講習会（日本滑空協会主催）に講師として参加
期　　間 ：令和 1 年 12 月 7 日（仙台）
概　　要 ：櫻井会員が講演「スピン事故防止のための訓練と環境」
期　　間 ：令和 2 年 2 月 16 日（福岡）
概　　要 ：丸山会員が講演「グライダー競技の世界」

⑦ 異常姿勢回避講習会（EMFT）に講師として参加
期　　間 ：令和 1 年 9 月 14･15･16 日（北海道滝川スカイパーク）
令和 1 年 11 月 16･17 日（関宿滑空場）
概　　要 ：櫻井会員が座学および実技フライトに講師として参加。

⑧ ユースキャンプ 2019 にインストラクターとして参加。
期　　間 ：令和 1 年 8 月 12･13･14･15･16 日（北海道滝川スカイパーク）
概　　要 ：丸山会員、吉岡会員が、若年層のソアリング技術の向上を目的とするユースキャンプに、インストラクターとして参加した。

6.「ウェーブフライトプロジェクト」

期　　間 ：平成 31 年 4 月～令和 2 年 3 月
概　　要 ：高性能滑空機を使用し、ウェーブ（山岳波）による日本アルプス方面、東北地方から北海道に至る長距離記録飛行、高高度飛行の研究、空域の開拓を田上、市川、丸山会員を中心として行った。


BLIPMAP

7.「板倉滑空場　事務所の充実」

概　　要：常勤職員（金曜－月曜）の配置、インターネットを利用して気象情報を取得し、解析する態勢の充実、会員データベース、会計システムの整備、資料室の整備、飛行記録および航空機の整備期限等の時間管理、毎飛行日ごとの安全ミーティング開催スペースの充実を図った。

8.「再生可能エネルギー（太陽光発電システム）の活用、財政基盤の強化」

概　　要：再生可能エネルギーの活用を目的として、太陽光発電システムを格納庫屋根に設置し、省エネおよび光熱費の軽減に寄与している。

9.「世界選手権等支援寄付事業」

概　　要：滑空機曲技世界選手権へ出場する選手の支援を目的とする寄付を、内外へ募った。

10.「クラブチームウエアの充実化」

概　　要：会員の一体感醸成、滑空スポーツのファッション化の推進を図り、昨年のクラブロゴ入りフリースに続き、ポロシャツの制作を企画した

E. 活動の記録

1. 発航回数（平成 31 年 4 月～令和 2 年 3 月）　＊日本でも有数規模のクラブ運営を実施。

曳航回数（航空機曳航）　:**1124** 回（曳航機内訳：ハスキー **1030** 回　ディモナ **94** 回）
曳航回数（ウインチ曳航）　: **137** 回（学習院大合宿）
動力滑空機（SL）自力飛行回数 :　**41** 回（DG400：2 機, DG800A）
ディモナ飛行回数　: **301** 回（内曳航 94 回）

	機種	飛行時間	飛行回数
個人・グループ機	JA2542　PW5	24:24	16
	JA08AP　Discus-a	23:40	9
	JA22KF　Discus-b	23:36	12
	JA2414　Discus-b	15:57	9
	JA2468　Discus-bT	42:38	31
	JA58HD　Discus-2b	101:12	39
	JA767Y　Discus CS	31:47	29
	JA2259　ASK13	16:14	137
	JA2408　ASK23	8:30	4
	JA2310　ASW20	13:25	7
	JA2485　ASW24	123:24	49
	JA22KJ　ASG29E	37:41	18
	JA2395　DG300	2:50	4
	JA2411　DG300	54:22	37
	JA2316　DG400	36:15	16
	JA40DG　DG400	71:08	20
	JA800A　DG800A	17:47	14
	JA24UK　LS4	19:42	12
	JA2431　LS4-a	12:04	14
	JA11AA　LS8-18	17:01	6
	JA2476　SZD-51-1 Jr.	10:31	13
	JA04KH　Duo Discus	28:54	34
	JA21TD　Duo Discus-T	57:12	30
	JA22MX　Duo Discus-XT	52:49	49
	JA22AT　ArcusT	65:47	22
	総飛行時間	**908:50**	—
	総飛行回数	—	**631**
クラブ機	JA2444　G102 AstirⅢb	63:30	43
	JA2442　G103A TwinⅡ	148:11	372
	JA2412　G103C TwinⅢ	143:08	280
	JA2845　Super Dimona	173:43	301
	JA4171 Husky	163:29	1057
	総飛行時間（滑空機）	**692:01**	—
	総飛行回数（滑空機）	—	**996**
総計	総飛行時間（滑空機）	**1600:51**	—
	総飛行回数（滑空機）	—	**1627**

2. 総会員数:　**156** 名（内 女性会員　**10** 名）
内訳:正会員 **110** 名（内 ユース会員 **16** 名、ジュニア会員 **3** 名）　賛助会員 **46** 名

3. 操縦士資格取得
自家用操縦士技能証明(上級滑空機):実地試験合格 **1**名
操縦教育証明(上級滑空機):実地試験合格 **2**名
動力滑空機限定変更:実地試験合格 **2**名

4. 整備士資格取得
二等航空運航整備士(上級滑空機):実地試験合格 **8** 名
二等航空整備士(上級滑空機):実地試験合格 **3** 名
動力滑空機限定変更:実地試験合格 **2**名

5. その他の会員活動等

	「海外での訓練飛行」 ①令和 1 年 8 月: フランスアルプス 櫻井会員 ②令和 1 年 11 月～令和 2 年 1 月, 令和 2 年 2 月～3 月: ワイケリー(オーストラリア) 渡邊、稲垣、山木、宇賀神、畠本、二宮会員 ③令和 2 年 2 月: アリゾナ(米国) 鐘尾会員(曲技訓練)
	＜吉田理事長 FAI エア・スポーツ・メダル受賞＞ 令和 1 年 9 月 20 日の「空の日」、航空関係者表彰式にて吉田理事長が、航空スポーツに顕著な功績や貢献があった個人、団体に贈られる「FAI エア・スポーツ・メダル」を受賞した。

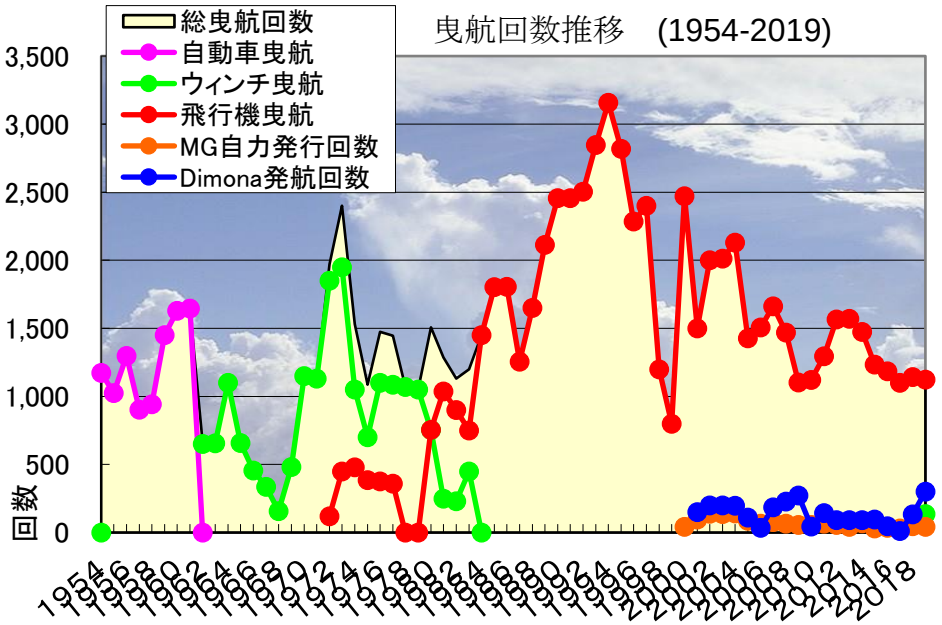
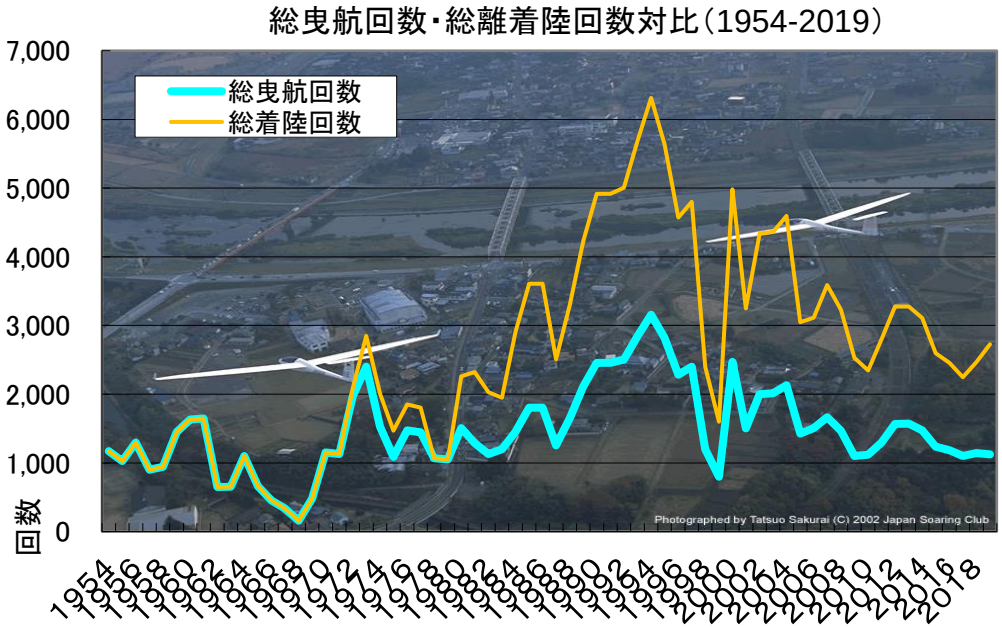
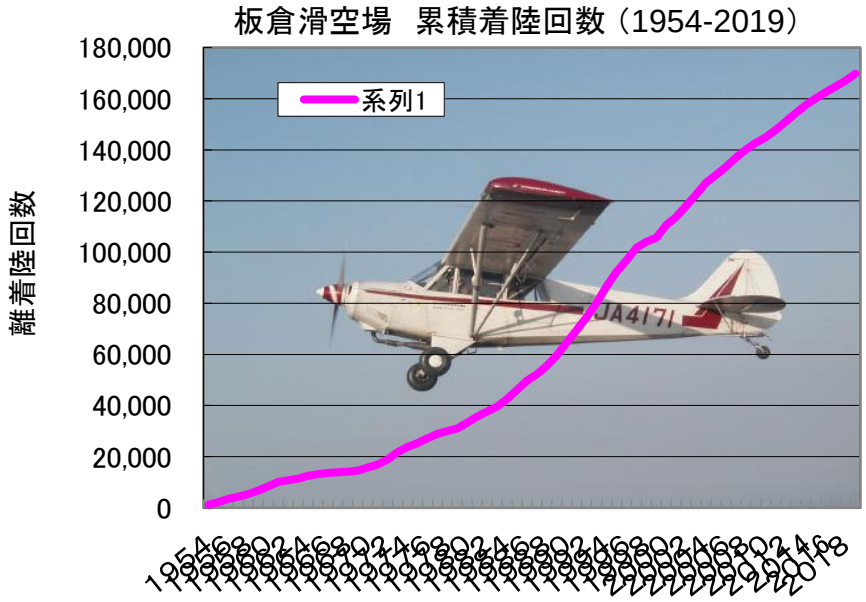
記

令和元年度事業報告には「一般社団法人および一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する付属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

令和 2 年 4 月 1 日
公益社団法人 日本グライダークラブ

公益社団法人 日本グライダークラブ　URL：www.glider.jp

◆板倉滑空場
住所：〒374-0101
群馬県邑楽郡板倉町除川 1286
TEL：0276-77-0830
FAX：0276-47-3013

◆東京事務所
住所：〒105-0004
東京都港区新橋 1-18-1 航空会館 9F
TEL/FAX：03-3591-7728
E-mail: shinbashi-office@glider.jp

（公益社団法人）日本グライダークラブ　統計資料